

## 鉄鋼標準化センター

## 1. 7 月度トピックス

## (1) 国際標準化関係

1) ISO/TC 17/SC 11 の日本の会員資格が O メンバーから P メンバー\*になる。

TC 17/SC 11 は日本鑄鍛鋼会が審議団体となっているが、今後 P メンバーとして積極参加することで SC 11 Secretary からも期待されている。この結果 TC 17 及びその SC への日本の参加資格はすべて P メンバーとなった。

\*P メンバー：規格作成作業に参画，国際会議で議決権がある。

2) TC 17/SC 8 の Secretariat をインドに替わって BSI (イギリス) が引き受けることになった。これによって、H 型鋼の寸法関係の国際規格化の活動が今後活発になりそう。

## (2) 国内標準化関係

1) 標準化委員会/分科会が 7 月 1 日付で新たにスタート。

工業技術院の指針である「JIS 規格審議団体と ISO 規格審議団体の一致」及び標準化業務の効率化を目的に下記の分科会が発足した。

- ・運営分科会 (戦略等共通事項立案) 水野主査 (標準化センター)
- ・JP 1 分科会 (構造用鋼関係) 前原主査 (新日鉄)
- ・JP 2 分科会 (圧力容器用鋼関係) 大浦主査 (川鉄)，田原副主査 (日鋼)
- ・JP 3 分科会 (薄板関係) 森下主査 (NKK)，黒田副主査 (東洋鋼板)
- ・JP 4 分科会 (特殊鋼関係) 山田主査 (神鋼)，宮川副主査 (大同)
- ・JP 5 分科会 (線材関係) 宮本主査 (神鋼)
- ・JP 6 分科会 (鋼管関係) 濱田主査 (住金)，柴田副主査 (NKK)
- ・JP 7 分科会 (油井輸送管関係) 奈良主査 (住金)
- ・JE 1 分科会 (基本規格関係) 桃木主査 (新日鉄)
- ・JE 2 分科会 (機械試験方法関係) 西島主査 (金材技研)
- ・JE 3 分科会 (鋼質判定試験方法関係) 竹村主査 (大同)
- ・JE 4 分科会 (分析関係) 佐伯主査 (新日鉄)
- ・JE 5 分科会 (非破壊試験関係) 木村主査 (日鉄テクノス)

2) 日本工業標準調査会第 130 回鉄鋼部会 (7 月 17 日) に於て、当協会標準化委員会にて原案作成を行った下記 2 規格が承認された。

- a. JISG 3199 鋼板の板厚方向特性 (制定)
- b. JISG 0901 建築用鋼板及び平鋼の超音波探傷試験による等級分類と判定基準 (改正)

3) 鉄鋼部門としてははじめて ISO 規格の直接翻訳規格が発行された。G 1238 鉄及び鋼—クロム定量方法—電位差又は目視滴定法

(ISO 4937 の翻訳規格，官報公示 7 月 3 日)

## 2. 標準化活動状況

## (1) 委員会・分科会活動

1) 標準化委員会/運営分科会 (7 月 28 日)

各分科会の運営とその具体的施策について協議。また、当分科会の当面の課題として「鉄鋼の標準化長期計画の策定」及び「鉄鋼関係三者構成委員会のあり方の検討」があげられ、9 月中旬頃を目処に一次のまとめを行う。

2) 標準化委員会/JP 主査会議 (7 月 22 日)

JP (製品規格関係) 各分科会間の担当範囲及び関係団体との連携の形がほぼ決まった。一部 JP 5 (線材関係) については、さらに線材製品協会などとの調整が必要。

3) 標準化委員会/JE 2 分科会 (7 月 22 日)

7 月より開始した新組織の主旨，構成員，業務の確認を中心に第 1 回の分科会 (機械試験方法関係) を行った。

4) 標準化委員会/JP 4 分科会 (7 月 27 日)

第 1 回目のキックオフミーティングを実施。構成メンバー，担当範囲，役割分担が決定。山田主査からの要請で、大同特殊鋼が副主査会社として満場一致で決まった。当面の課題として DIS 投票にかかっている DIS 4955，DIS 683-18，DIS 11692 が審議された。

議題：国際会議の議題となりそうな B 鋼，工具鋼，軸受鋼及び DIS 投票にかかっている DIS 6931-1 についての協議。

5) 標準化委員会/JE 4 分科会関連

a. 第 106 回 SC 1 分科会 (JE 4 分科会準備会) 及第 46 回 SC 1 諮問部会 (7 月 16/17 日) 佐伯主査ほか 11 名出席。

・第 14 回 SC 1 国際会議 (於ロンドン) の報告

・新規作業項目への日本側対応の審議

・ICASI 出席報告

・JE 4 分科会の組織について討議。11 月の共研・鉄鋼分析部会以降に発足の予定。

b. 平成 4 年度 JIS 見直しにつき関係者に意見を求めるアンケートの発送 (07-06)

c. 鉄鋼分析関連 JIS 発行 (7 月 3 日官報公示)

制定：G 1238 鉄及び鋼—クロム定量方法—電位差又は目視滴定法

(ISO 4937 の翻訳規格：鉄鋼分析国際規格の直接翻訳規格第一号)

改正：G 1201 鉄及び鋼の分析方法通則

G 1214 鉄及び鋼中のりん定量方法

G 1225 鉄及び鋼中のひ素定量方法

G 1227 鉄及び鋼中のほう素定量方法

G 1236 鋼中のタンタル定量方法

6) 鉄鋼標準試料委員会関連

a. 鉄鋼標準試料委員会運営部会 (07-10)

・認証値の決定 (JSS 168-7, 170-7, 745-2, 750-2, 601-9, 603-8, 001-3)

・素材の検討 (JSS 110-10, 009-2, 1201-1, 813-4, GS-6b)

・その他

b. 極微量炭素含有率認証値決定 WG (07-30)

c. 標準物質懇談会 (07-20) 日本規格協会主催

標準物質認定・認証制度の国内機関設立に付いて討議。

次回：09-21

7) TC 67/SC 5 諮問部会 (7 月 14 日)

a. TC 67/SC 5/WG 1 (H 4 年 6 月 4 日/ダラス) 会議におけるケーシング、チュービング最終 WD の審議結果に対し、日本としての再検討を行った。この結果を次回 TC 67/SC 5/WG 1 会議 (H 4 年 10 月 19 日~20 日/神戸) に提出予定。

b. 次回 TC 67/SC 5 会議 (H 4 年 10 月 21 日~23 日/神戸) への提出資料関係につき討議し、検討結果を次回のこの会議 (H 4 年 8 月 26 日) でまとめる予定。

### 3. TC 17 幹事国業務

(1) ISO 規格が発行されたもの：1 件

ISO 404 (SC 20)：技術的出荷条件総則 (07-01)

(2) 規格発行について TC 議長の設定がなされたもの：1 件

DIS 8458-3 (TC 17/WG 20)：機械ばね用鋼線-油焼入・焼戻線 (06-19)

(3) DIS 投票が開始されたもの：2 件

DIS 5948 (SC 13)：鉄道車輪車軸用鋼材の超音波試験 (07-16)

DIS 1005-6(SC 13)：鉄道用一体型車輪(07-16)

(4) ISO 中央事務局関連

1) 会員資格

会費未納入のため ISO の資格中断の団体は下記 6 か国  
イラク、北朝鮮、ロシア、ガーナ、アルジェリア、ケニア  
TC 17 関係団体はイラクを除く 5 か国

2) ウィーン協定実行のためのガイドライン

内容は、従来入手の情報と大差なし。議長、事務局が実行しやすいように若干書き下している。

(5) TC 17 全般

1) Quarterly report 作成・発行 (07-22)

TC 17 より発行してきた Quarterly report は、まる 1 年を迎え、今後さらに続けるべきか配布先へ質問状を添付。役立ってれば継続する。

2) 第 17 回 TC 17 総会決議事項のフォロー

Resolution 11/91：ISO/TC 17/SC 8 の Secretariat を BSI が引き受ける件の質問状に対する回答は 16 か国からあり、全員賛成であることを確認し、中央事務局へ報告。ただし、アメリカ、カナダよりヨーロッパ規格をそのまま YES、NO の投票するのではなく、寸法関係については他の国の規格も考慮に入れるべきとのコメント付き。

(6) SC 2-鋼の用語・分類-

・ISO 4948-1 (鋼の分類) 5 年見直しの投票結果 (TC 17 でコメント処理)

確認：8 か国 (中国、インド、イタリア、日本、ポーランド、ルーマニア、タンザニア、アメリカ)

改訂：1 か国 (フランス)

廃止：1 か国 (イギリス)

(結論)確認とする。ただし、この規格の存在意味は一度討議必要。

・ISO 6929-1 (鋼製品の定義と分類) 5 年見直しの投票

結果 (TC 17 でコメント処理)

確認：8 か国 (中国、インド、イタリア、日本、ポーランド、ルーマニア、タンザニア、アメリカ)

改訂：2 か国 (フランス、イギリス)

(結論)確認とする。

(7) SC 7-鋼の試験方法-

次回国際会議の開催通知が送られてきた。

日時：1992 年 10 月 21 日~23 日

場所：パリ

議題：ISO 642 (1979) 鋼のジョミニーテスト、ISO 4967 (1979) 鋼の非金属介在物量判定方法改正の審議。

(8) SC 8-形鋼の寸法・許容差-

ISO 1035-4 (熱間圧延棒鋼の許容差) 5 年見直しの投票結果 (TC 17 でコメント処理)

確認：12 か国 (オーストリア、中国、チェコスロバキア、フランス、ハンガリー、イタリア、日本、オランダ、ルーマニア、タンザニア、トルコ、イギリス)

改訂：1 か国 (アメリカ)

(結論)確認とする。

(9) SC 11-鋳鋼-

1) 会員資格：SC 11 Secretary の Mr Blair より下記連絡

日本が O メンバーから P メンバーになった。

2) 新作業項目の参加者募集

下記新作業項目の参加者が少ないため、再募集中

N 288-Austenitic Manganese Steel Castings

N 289-Standard Practice for Estimating Ferrite Content of Austenitic Steel Castings  
-Centrifugally Cast Tube

### 4. TC 17/SC 1 幹事国業務 (国内関連業務を含む)

(1) 承認段階 (Stage 4)：

1) DIS 10702 (N-蒸留滴定法)；DIS の投票中 (03-12~09-12)、日本は賛成投票済 (04-27)。

(2) 委員会段階 (Stage 3)：

1) CD 10698 (Sb-無炎原子吸光法)；Editing Committee (英語版) の見解に従って CD を修正して DIS 登録をするための準備中、なおフランス語版は現在 AFNOR において作成中。

2) CD 10278 (Mn-プラズマ)；WG 12 コンビナーが最終 CD 作成中 (9 月末目標)

3) CD 10697-2 (Ca-原子吸光法)；最終 CD を DIS として登録するための準備中、フランス語版は AFNOR で作成中。

4) CD 10719 (GC-燃焼赤外線吸収法)；WG 20 コンビナーが最終 CD 作成中 (9 月末目標)

5) CD 10700 (Mn-原子吸光法)；最終 CD 作成中 (9 月末目標)

6) CD 10701 (S-吸光光度法)；最終 CD 作成中 (9 月末目標)

7) CD 10720 (N-融解熱伝導率法)；コンビナー及び若干のラボによる検討実験と実験所数を増やした再度国際共同実験準備中。

- 8) CD 439 (Si-重量法); 最終 CD 作成中 (9 月末目標)  
 9) CD 11652 (Co-原子吸光法); 再度国際共同実験準備中。  
 10) CD 11653 (Co-電位差滴定法); コンビナーの検討実験と再度国際共同実験準備中。  
 11) CD 4941 (Mo-吸光光度法); コンビナーが最終 CD 作成中 (9 月末目標)  
 (3) 作成段階 (Stage 2): 下記 WG にて WD 作成中。  
 1) WG 32 (Ni, Cu, Co-ICP); コンビナーはフランス。  
 2) WG 33 (Mo, Nb, W-ICP); コンビナーはスウェーデン。  
 3) WG 34 (B-MAS); コンビナーは日本 (コベルコ科研の河村委員)。  
 4) WG 35 (B-ICP); コンビナーはスペイン。  
 5) WG 36 (S-HFIR); コンビナーはフランス。
- 6) Ad hoc G 14-1 (Low C); コンビナーは日本 (担当者は未定)。  
 7) Ad hoc G 14-2 (XRF); コンビナーは英国。
- 5. TC 67/SC 5 幹事国業務**  
 (1) TC 67/SC 5 神戸会議 (10/21~23) への出欠回答  
 7 月末時点でフランス出, エジプト欠の連絡受。(ドイツ, 英国, 米国, イタリア, 日本は出席の予定) (出欠回答は 8 月末締切りで依頼中)
- 6. 国際会議 (向こう 3 か月間の予定)**  
 9 月 16 日~18 日 TC 17/SC 19 国際会議 (ミラノ)  
 9 月 28 日~30 日 TC 67/SC 1 国際会議 (デュッセルドルフ)  
 10 月 1 日~2 日 TC 67 総会 (ロンドン)  
 10 月 19 日~20 日 TC 67/SC 5/WG 1 国際会議 (神戸)  
 10 月 21 日~23 日 TC 67/SC 5 国際会議 (神戸)  
 10 月 21 日~23 日 TC 17/SC 7 国際会議 (パリ)

**● 東海支部 第 9 回若手材料研究会  
 — 材料の表面改質・表面コーティング —**

1. 主催: 日本鉄鋼協会・日本金属学会東海支部  
 2. 日時: 1992 年 11 月 26 日(木) 13:00~27 日 13:10  
 3. 場所: トピー工業(株)豊橋社員クラブ (愛知県豊橋市王ヶ崎町上の原 1 の 7)  
 < 1 日目 >  
 4. 講演  
 アルミニウムの表面硬化処理 豊田工業大学教授 恒川好樹  
 分科会討論 (話題提供・討論)  
 第 1 分科会—表面改質 (浸炭窒化, イオンプレーティング等)—  
 第 2 分科会—表面コーティング (溶射, メッキ, CVD, PVD 等)—  
 第 3 分科会—特性評価 (表面解析, 接着強度等)—  
 懇親会  
 < 2 日目 >  
 分科会報告  
 5. 参加費: 8,000 円  
 6. 定員: 45 名  
 7. 申込期限: 11 月 2 日(月)  
 8. 問合せ・申込先 氏名, 勤務先, 所属部課名, 所在地, 電話番号, FAX 番号と参加希望分科会を明記の上,  
 FAX または郵便にて必ず事前にお申込み下さい。  
 〒441 豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘 1-1 豊橋技術科学大学生産システム工学系  
 若手材料研究会 連絡幹事 新家光雄  
 FAX 0532-47-2688 TEL 0532-47-011(内)819